

〔群書一覽六〕日本國圖

一鋪

はじめて日本の圖を造りしは、行基大僧正にして、その圖拾芥抄に載たり、又足利時代の圖、其餘古圖往々寫本にて存せり、唐本に日本の圖をのせたるは、圖書編、武備志、海防纂要、全浙兵制、海東諸國記等なり、いづれも國名の差訛、方隅の倒置等あり、

大日本六十八州圖寫本

七十鋪

國ごとに四方の里數、郡村山川城主の名などをもくはしく玄るし、別に蝦夷朝鮮の二圖を附す、

〔異稱日本傳上〕相傳、紀伊國熊野山下飛鳥之地有徐福墳、又曰熊野新宮東南有蓬萊山、山有徐福祠、近沙門絕海入明、太祖皇帝召見指日本圖、顧問海邦遺跡、勅賦熊野詩略下

〔吾妻鏡九〕文治五年九月十四日辛未、二品○賴朝求、令求、奧州羽州兩國省帳田文已下文書給、而平泉館炎上之時燒失云云、難知食其巨細被尋、古老之處、奥州住人豊前介實俊、并弟橘藤五實昌申存故實由之間、被召出令問子細給、仍件兄弟暗注進兩國繪圖、辨定諸郡券契鄉里田畠、山野河海悉見此中也、注漏餘目三所之外、更無犯失、殊蒙御感之仰、則可被召仕之由云云、

〔續應仁後記九〕同義昭、利濃州著御事附信長催促事

信濃田織ソレヨリ岐阜エ歸城シ、江州一國ノ繪圖ヲ閲シテ、地形ノ勘辨合戰ノ委細ヲ評定シ、近日彼表エ可打立由催サル、

〔豐薩軍記二〕宗麟軍議石宗諫言并島津系譜之事

薩隅之兩國は不知案内にて候へば、先修行者商人などを仕立、土地の廣狹山川の險易、路次の宿驛等繪圖に摸させ御覽あり、能く勘辨あそばされ、其後御發向然るべく候はんとぞ申しきる、

○按ズルニ、戰時ニ地圖ヲ製スル事ハ、兵事部戰鬪上篇製地圖條ニ詳ナリ、